

とっても素敵なお土産をゲットに感謝！

当HP「『明石洋子さんの本の完結をお祝いする会』へ出席して（「雑学 BN」の随想等関係（IV）P、2005.12.11.：参照）」に触れている、たまたま同じテーブルで親しくお話しさせていただき若い母親から、後日思いもしなかったお手紙をいただいた。

「……。先日、東京で明石さんのお祝いする会では、同じテーブルだった事も有りまして阿部先生より声をかけて頂いて本当にありがとうございました。あの様な大きな会に出席しましたのも始めてで、自分から色んな人とお話する事の苦手な私にとっては、先生より声をかけて頂いた事、本当に嬉しく思います。先生よりお話頂いた事、今でも胸の中に有ります。……。12月11日は、すばらしい一日でした。ありがとうございました。」とご丁寧な文面。

あの日の夜明石さんからのメールで知ったが、明石さん親子が生出演した8/23のNHKの「ほっとモーニング」の放送を見て、11月初めの明石さんの京都での講演会を聞きにきてからの交流の日もまだ浅い、3才の障害のあるお子さんの前向きな母親だったよう。

それだけに、母親が遠路関西から出席くださっただけに、「きっとポツンとされていらっしたので、先生がお声をかけられたのでしょよね。本当に今日はありがとうございました。」とのメール。

席は自由な立食パーティーで偶然同じテーブルになっただけで、明石さん以外の知り合いもいなかったもので、いつもの厚かましきから話しかけさせていただいた。

結果的には、「明石配剤(?)」のなせる業か…。やはり、明石さんのオーラは凄い！

何事も出会いですね。まずは、厚かましく、話しかける勇気がないと、出会いは生まれませんよね。

自分が常に厚かましくと云うのは、折角の出会いのチャンスを逃がすことはないということにもなりますよね。

よく、自称：識者は、「係わり合いが大事」とか、「心の触れ合いが必要」とコメントしていますが、そのためには、具体的にどういう場面でどう行動するかまで、あまり触れてくれませんか。

自分なりに、人との係わり合いを求めるなら、如何なる状況、場面でも「厚かましく、勇気をもって、『求めよ！さらば与えられん』」かな。

久しぶりの上京だっただけに、「新たな出会い」という、とっても素敵なお土産をゲットに感謝！

(2005年12月18日記)